

特集

東京2020オリンピック出場
永原和可那選手

帰町報告会



永原選手の挑戦は続く

今回のオリンピックについて「あつという間でした。試合では、やれることを出し切れたと思った振り返る永原選手。

高校3年生のときに2020年オリンピックの東京開催が決定し、そのときからオリンピックを意識したこと。

コロナ禍により開催が1年延期となり「こんなにもバドミントンをしない日は今までなかつた。競技へのモチベーションを見つめなおすききっかけになつた」と語ります。

今後について「バドミントンを続けていくので、応援してください」とコメント。永原選手の挑戦はまだまだ続きます!

8月13日(金曜日)、芽室町総合体育館で永原選手の帰町報告会が開催されました。当日は前半に帰町報告会、後半にバドミントンクリニックが行われました。報告会では手島町長や2010年冬季バンクーバーオリンピックに出演した土井 槟悟さんとの対談、参加者からの質問タイムが設けられ、バドミントンクリニックでは永原選手自ら実践披露をしていただきました。

夢と感動を、ありがとうございます。

流を見て、聴いて、学ぶ

参加者コメント

かねそりな 莉菜さん 小笠原りこさん 林華乃葉さん 小川紗綺さん

永原選手との対戦はいつも強烈な試合となりました。永原選手の強さを感じた。私もスマッシュの精度をあげられるようになりたい！

永原選手にはスキを思い切り打てるようになります。（小川さん）

永原選手は打ち方がなく、攻めるのが難しかった。私もスマッシュの精度をあげられるようになります。（林さん）

永原選手は打ち方をされないので、今まできれいだつた。永原選手のスマッシュがとてもきれいだつた。永原選手は打ち方をイメージしながらできるようになります。（小笠原さん）

（金曾さん）

永原選手Q&A

子どもたちから出た質問・回答を一部紹介します。

試合前にしていることはありますか
入場前に靴紐を結び直しています

子どもたちに何かメッセージはありますか
夢をもつてもらいたいと思います

「自分も小学生のころは何か夢を持つこと」で、今すべきことが見えてくる」と力強く語ります。

「誰でもプレーできることです！」

バドミントンの魅力は？

バドミントンの魅力は「小さい子どもから年配の方までプレーできること」だそう。「かけひきで勝負が決まるので、見ていても楽しい」と笑顔でコメントされていました。

永原選手からのメッセージ

オリンピックではたくさんのご声援をいただき、本当にありがとうございました。
目標とする結果で終わることができず、悔しい気持ちでいっぱいですが、オリンピックの舞台に立てた時間は本当に幸せでした。
また違う形で皆さんに恩返しができるよう、今後も頑張っていきたいと思いますので、これからも応援よろしくお願ひします。

ながはらわかな
永原和可那



後半のバドミントンクリニックでは、子どもたちも永原選手も真剣な表情。約1時間半のクリニックを終えたあと、子どもたちは永原さんと笑顔でグータッチして退場しました



特別版
まちのうごき

れいわ ねんだい かい
令和3年第72回

芽室町成人式

め む ろ ち ょ う せ い じ ん し き
第72回芽室町成人式が8月14日(土曜日)芽室駅前プラザ(めむろーど)で開催されました。コロナ禍で1月の開催から延期していましてが、感染対策を実施した上で開催し、92人が参加しました。新成人が参加されました。新成人の皆さんには、なかなか同年代が集まる機会が少ない中、久しぶりに会う友人らとの短いひとときを楽しみ、会場はマスク越しの笑顔であふれていました。式典では、町長挨拶の後、新成人を代表して、芽室町民憲章の朗読を尾崎愛実さん、はたちの誓いを荒井僚太さんと中山綾乃さんのお一人が務め、成人としての自覚や責任を述べました。さらに、保護者や来賓の参加を見合わせたことから、代わりに恩師の先生方と動画を作成し、上映しました。また、東京2020オリンピックに初出場した芽室町出身の永原和可那選手がサプライズで登場し、激励の言葉をいただきました。大人としての決意を抱き、困難な世の中を切り拓く新成人の皆さんに心からお祝いを申します。



集合写真時のみマスクをはずし、スマイルをいただきました。

あつまれ! 18,198人!

まちのうごき



8月17・18日
めむろーど
体力測定会 ~まずは自分を知ろう~

65歳以上のシニアの方々を対象に、いつまで元気で過ごす健康の第一歩として、体力測定会が行われました。若いうちから身体機能の低下を予防し、5年後、10年後…そして「人生100年時代を元気に!」を目標に、まずは自分の今を知るところからはじめます。

2日間で65歳から89歳までの104人の皆さんがそれぞれ割り当てられた時間に集合し、10m全力歩行や握力測定、あたまの元気度テストなどの測定を行っていました。

まっすぐ伸びた背筋、笑顔で励ましあうシニアの皆さん。ぜひとも見習いたいものです。



8月24日
やくば ちょうしゃ
役場庁舎
『全匙プロジェクト』による酪農漫画の寄贈

北海道内の農業者や学生が主体のチーム『全匙プロジェクト』より、芽室町内の小中学校に酪農漫画を寄贈いただきました。このプロジェクトは「子どもたちが農業や酪農に興味を持つきっかけを作りたい」との思いから、各地の学校に酪農漫画を寄贈しています。

当日は事業連携先であるJAめむろ青年部の川瀬良介部長より教育長に本が手渡されました。川瀬部長からは「漫画を通じて農業について知ってもらえた」と期待を込めたコメントをいただきました。

撮影時のみマスクを外していただきました。

みんなのひろば

やくば ちょうしゃ
役場庁舎



8月5日
ぜんこく ぶたい
きあ じゅうぶん
全国の舞台へ 気合い十分

この夏、全国中学校体育大会に出場予定の芽室中学校の生徒が教育長室を訪問し、教育長に出場報告を行いました。今回は女子ソフトテニス、陸上競技、ソフトボール(帯広市内の学校との合同チーム)の3つの部が全国大会に出場予定です。

コロナ禍により十分な練習のできない期間もありましたが「全国の舞台でベストを尽くします」と意気込みを語りました。



8月19日
やくば ちょうしゃ
役場庁舎
全道大会に向け、期待大!

第66回北海道吹奏楽コンクールに出場予定の芽室中学校吹奏楽部が教育長に出席報告を行いました。8月1日に行われた帯広地区予選では、中学校A編成の部で見事金賞を受賞。芽室中学校吹奏楽部が全道大会に出場するのは、これで10大会連続となりました。

大会出場にあたり、部長の小枝さんは「地区大会の反省を活かして頑張りたい」とコメント。程野教育長からは「ぜひ全国大会を目指して頑張って」とエールが送られました。